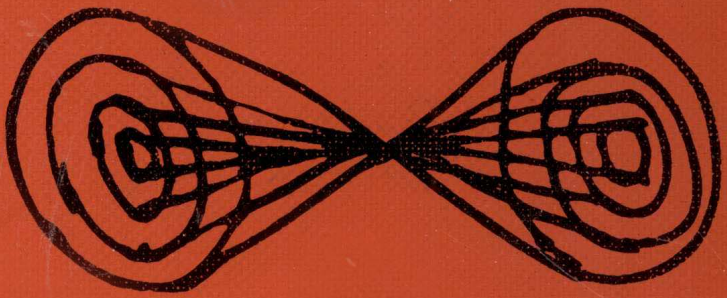

シェイクスピア

ジュリアス・シーザー　十二夜
ウィンザーの陽気な女房たち
ハムレット　オセロー　リア王
マクベス

中野好夫・小津次郎・西川正身
三神勲・木下順二・斎藤勇　訳

世界文學大系

世界文学大系 12

シェイクスピア

昭和34年9月10日発行

定価500円

訳者代表　中野好夫

発行者　古田晁

印刷者　多田基

発行所　株式会社 筑摩書房

東京都千代田区神田小川町2の8
振替東京 4123　電話 (291) 局7651

目次

ジュリアス・シーザー　中野好夫訳　5
十二夜　小津次郎訳　65
ウィンザーの陽気な女房たち　三神勲訳　西川正身訳　108
ハムレット　三神勲訳　161
オセロー　木下順二訳　246
リア王　斎藤勇訳　317
マクベス　小津次郎訳　388
シェイクスピアとセネカの克己主義　T・S・エリオット　平井正穂訳　424
解説　小津次郎　434
年譜　443

装

幀

庫

田

叕

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

シェイクスピア

ジュリアス・シーザー

登場人物[1]

ジュリアス・シーザー
オクテイヴィアス・シーザー
マーカス・アントーニアス
エミリアス・レピダス　シーザー死後の三頭。
シセロ
パブリアス
ポピリアス・リーナ　元老院議員。
マーカス・ブルータス
キャシャス
キャスカ
トレボーニアス
リゲイリアス
ディシャス・ブルータス
メテラス・シンバー
シナ　シーザーに対する暗殺陰謀の徒。
フレイヴィアス
マララス　護民官。
アーテミドーラス　クニドスの詭弁派学徒。
占い者
シナ　詩人。
ルシリアス
ティティニアス　ブルータス、キャシャスの友人。
メッサーラ
小ケイトー
ヴォラムニアス
ヴァロー
クライタス　ブルータスの召使。
クローディアス
ストレイトー
ルーシャス
ダーディニアス　ブルータスの召使。
ピンダラス　キャシャスの召使。
キャルパーニア　シーザーの妻。
ポーシャ　ブルータスの妻。
元老院議員、市民、親衛兵、従者、その他大勢

場面

大部分はローマ。後にサーディス及びフィリパイ附近の地に移る。

第一幕

第一場　ローマ。街上。[2]

フレイヴィアス、マララス及び平民たち登場。

フレイヴィアス　ああ、どいた！　かえれ、かえれ、休みか、今日は？　なに、知らない、職人の癖に？
仕事日だぞ、商売の標[しるし]の仕事着も着ないで、[3]出歩いちゃならんてこと

---

(1) シェイクスピア劇の常で、原本（第一二折版全集）には登場人物表はない。後世編纂者が附加したものである。したがって各人物の公職名の如きは、むろんこれも編纂者が史実にもとづいて加えたものにすぎない。シェイクスピアならびに看客は、どこまで正確にそうした身分の意味を理解していたか疑わしい。おそらくはほとんど意識に上らなかったのであろう。

(2) 明らかに引幕を閉じて、外舞台だけ使用。なお以下五つの幕割は原本にあるが、場割はすべて後代の編集である。

(3) 商売の標の仕事着も着ないで――諸説あり、決定しないが、とにかく古代ローマの風俗に、かかることのなかったことは確実。中世ギルドには、祭日に各所属ギルドを区別する服装をする習慣はあったが、ここは祭日でないのだから当らない。深い意味はなく、次のマララスの「革前垂に定規」という言葉が意味するように、単に職業特有の↓

を

知らないのか？　おい、なに商売だ？

平民一　へい、旦那、大工で。

マララス　革前垂と定規はどうした？

一帳羅なんぞ着やがって、なにをしてるんだ？

おい、お前さん、お前さんの商売はなんだね？

平民二　なァに、旦那、立派なお職人衆から見ますりゃ、手前なんぞはもうほんの補綴屋みたいなもんで。

マララス　商売はなんだ、と訊いてるのだ。はっきり言え。

平民二　なに、旦那、別に気が咎めるような商売じゃござんせんつもりで。つまりそのゥ、底のほうの傷んだのを、つくろって差上げますほうなんで。

マララス　だから、なに商売だというんだ？

わからん奴だ！　太い野郎が、なに商売だ？

平民一　まあ、どうぞ、旦那、そうご機嫌を悪くなさいませんように。もっとも、なんなら手前が直して差上げましてもよろしゅうございますが。

マララス　なんだと？　このおれを直す？　生意気な野郎だ！

平民二　なに、手前は靴のほうを直して差上げますんで。

フレイヴィアス　じゃ、靴直しだというのか？

平民二　まったくの話が、旦那、手前は錐一本でお飯を食べておりますんでな。もっとも錐と申しましてもな、別に他人様のご商売や、それから女子衆を突ッついたりするわけじゃございませんので。なに、もう錐一本で古靴のお医者ってもんでございますよ。つまりそのゥ靴の生命が危篤うなりますとな、皮を着せて手前が直して進ぜる。なに、小牛の鞣皮をお召しになる旦那様方でも、立派なお歴々方は、もうみんな手前の手仕事をあてになすっておいでのようで。

フレイヴィアス　だが、今日はまたなぜ店にいないんだ？

なぜこんな連中を引連れて、ゾロゾロ街を歩くんだ？

平民二　じつはなに、旦那、せいぜい靴をへらしていただきましてな、手前どもの仕事を、たんとこさえていただこうってんで。だが、そのまったくのところはですな、旦那、シーザー様の凱旋[1]をお祝い申上げようと存じましてな、仕事は休みってことに致しましたんで。

マララス　なにがお祝いだ？　どんな戦利品を持ってくるというのだ？

どんな身代料の捕虜たち[2]を、戦車の飾りに縛りつけて、連れて来ようというのだ？

この木石野郎、いや、木石にも劣る馬鹿者めが！

この人情知らずの、残忍、冷酷な素町人めら！

貴様たちはポンペイ殿を知らないのか？　幾度貴様たちは、

城壁にのぼり、胸壁にのぼり、塔、窓、いや、煙突の頂上にまでよじのぼって[3]、しかも子供を抱いたまま、終日、よくも根気よく、

首を長うして、あの大ポンペイ殿の凱旋行列を見ようと待ったことか。

ポンペイ殿の戦車が、チラとでも見えようものなら、

一斉に歓呼の声をあげる。さすがのタイバーの河水も、

あのうつろになった川岸の起す反響のひびきに、

堤の下の流れなどはふるえ動いたほどだった。

それが、貴様たち、今日はどうだ、

一帳羅の晴着などとめかしこんで、

わざわざ仕事を休んでまで、

あの男の道筋に花を撒くというのか？　こともあろうに、

ポンペイ殿の血族を亡して帰るあの男のだ！

とっとと、往っちまえ！

こんな恩知らずには、疫病、禍いが降りかかるにきまっている。

さあ、早く家に帰って、神々の前にひざまずいて、

どうかそれだけは、おやめ下さいと祈るがよい。

フレイヴィアス　さあ、平民たち、帰った、帰った。そして罪滅しには、

貴様たち仲間の貧乏人をことごとく駆り集め

て、
タイバーの堤につれてゆくのだ。そして今いちばん低いあの河水が、
もっとも高い岸辺に溢れるまで、貴様たちの涙を流すがよい。

〔平民らすべて退場〕

どうだ、いくら下等な奴らでも、さすがに感動する心はあるとみえる。
心やましさに、一言もなく黙々として帰ってゆくよ。
君はそっちの道を、キャピトルのほうへ行ってくれたまえ。
僕はこっちへ行く。もしまたなにか栄誉のしるしでも飾った
像が見つかったら、早速引き剝がしてくれたまえ。

マララス　そんなことをしても、いいのだろうか？

なにしろルーパカルの祭日だぜ、君。[4]

フレイヴィアス　構うものか。どんな像にせよ、シーザーのためにした飾りなど、いっさいつけさせてはならぬ。
僕も巡廻して、平民どもを街々から追払うつもりだが、
君も、奴らが群集しているのを見たら、追払ってくれたまえ。
今伸びかかっているこの羽根さえ、シーザーの翼からむしりとっておけば、
いくら彼だとて、普通以上の高翔びはできなかろうがね、
でなけりゃ、たちまち人間どもの視界はるかに舞上ってしまって、
僕らはその下風に立って、奴隷のようにビクビクしなければならなくなる。

〔両人退場〕

第二場　広場。[5]

ラッパ吹奏。シーザー、アントニー（競走の身支度をして）、キャルパーニア、ポーシャ、ディシャス、シセロ、ブルータス、キャシャス、キャスカ、その後から群集多数（そのうちに占い者一人交る）登場。

シーザー　キャルパーニア！
キャスカ　シッ、静かに！　シーザー閣下のお言葉だぞ。
シーザー　キャルパーニア！
キャルパーニア　はい、これにおります。
シーザー　アントーニアスの前に立ちふさがるのだ、
あの男が馳ける時にな。アントーニアス！
アントニー　閣下、なにかご用で？
シーザー　アントーニアス、君が馳ける時、忘れないで、
キャルパーニアに触ってやってくれたまえ。[6]
古老たちの話では、
子種のない女も、この祭の競走で、誰かに触

↓服装をいっただけのものだろう。一説には「商売の標」とは単に商売道具ととる説もある。もしそうであれば訳文は、「商売の標の道具も持たないで」と改められるべきであろう。

(1) 史実的では、西紀前四五年十月ポンペイの息子たちを破ってローマへ凱旋した。シェイクスピアは、それを歪曲的統一のため、前四四年二月十五日ルペルカリア祭日の事件に改めている。

(2) 身代料の捕虜たち――古代の戦争では、捕虜返還と交換に身代金、あるいは貢物を要求するのを常とした。

(3) 城壁にのぼり、胸壁にのぼり、…煙突の頂上にまでよじのぼって――ハリソンによれば、この光景を描きながら、シェイクスピアは明らかにローマ古風俗ではなく、常に目前見なれたロンドンの物見高い民衆を思い浮べていたと主張し、エリザベス女王葬儀の日の記述、「ウェストミンスター市域は葬儀を見に集ったあらゆるおびただしい市民によって、街といわず、家といわず、窓といわず、屋根といわず、溢れていた」という一節を引用している。

(4) 二月十五日。ルペルカリアの英語読み。由来は諸説あれど、狼群に対して羊を護る神ルペルクスの祝祭であり、その日犠牲に捧げた動物の皮を裂いて紐となし、これをもって青年たちがローマ市城壁をめぐって疾走しながら、誰彼となく行人を打つ奇習があった。打たれた者は浄まるものと信じられ、ことに婦人は不妊の呪が落ちるという信仰があったことは第二場に出る。

(5) 引幕を開いて全舞台使用。すなわち舞台奥が祭場に見立てられ、最初シーザー等の登場は外舞台入口から、八ページ中段二行ブルータス、キャシャス二人を残しての退場は内舞台入口からする。奥の祭場へ行った心持。したがって一一ページ下段一行の出は、その帰りの意味で、同じ内舞台入口から登場、外舞台に現れ、一二ページ中段二一行で最初の外舞台入口から家路へつく。

(6) 前出注（4）参照。

ってもらえれば、
不妊の呪が落ちるということだ。
アントニー　承知しました。
閣下から「こうせよ」と
ご命令がある以上、それはもう果されたも同
然であります。
シーザー　さあ、はじめい。儀式はいっさい簡
略になぞしないようにな。
〔ラッパ吹奏〕
占い者　シーザー！
シーザー　ほう、誰だ、名を呼ぶのは？
キャスカ　いっさい物音をやめた。もう一度、
静かに！
シーザー　群集の中から、わしの名を呼ぶのは
誰だ？
どの楽器よりも甲走った声で、シーザーと呼
ぶ声をわしは聴いた。
物を言え、シーザーは耳を貸しているぞ。
占い者　三月十五日にご用心。
シーザー　なに奴だ、あれは？
ブルータス　占い者が、三月十五日にご用心な
さるようにと申しております。
シーザー　ここへ連れてまいれ。顔が見たい。
キャスカ　こら、群集の中から出て、閣下にお
目通りをしろ。
シーザー　その方は今なんと言った？　もう一
度言うがよい。
占い者　三月十五日にご用心。
シーザー　彼奴は夢を見ているのだ。構わない
で、さあ、行こう。
〔ラッパ吹奏。一同退場。ブルータスとキャシャス残る〕
キャシャス　あなたは競走を見にゆかないので
すか？
ブルータス　いやだ、僕は。
キャシャス　お出でなさいよ、ねえ。
ブルータス　僕は競技類はきらいだ。僕にはア
ントニーのような、
ああした快活な精神が多少欠けているのだな。
だが、キャシャス君、君の行きたいのまで邪
魔したくはない。
僕はこれで失敬する。
キャシャス　ブルータス君、近頃あなたの様子
を見ていると、
以前いつも私に示してくれた、あのやさしさ、
親愛の表情というものが、
あなたの眼から消えてしまったように思える
のだ。
あなたを愛している親友に対して、あなたは
あまりにも
ひどい、よそよそしい態度をする。
ブルータス　キャシャス君、
誤解しちゃいけない。僕が打ち解けない顔を
したとすれば、
それは心配な顔付を、ひたすら自分の胸に向
けているからなんだ。
じつは近頃、僕の胸の中にはいくつかの感情
が争っているのだ、
むろん僕一人だけの考えなのだが、
それが僕の行動に、多少の陰影を投げている
のかもしれない。
しかし、だからといって親友たちに心配はか
けたくない、——
むろん、キャシャス君、君もその一人なんだ
が、——だが同時にまた、
僕がよそよそしくするからといって、余計な
臆測をするのは、
よしてもらいたいのだ。可哀そうにブルータ
スは、
われと自ら苦しんで、他人に親愛を示すこと
さえ
忘れてしまったのだと、そう思ってくれれば、
それでいいのだ。
キャシャス　ブルータス君、では、あなたの心
をとんだ誤解をしていた。
だもんだから、私はある重大な考え、それは
大いに聞いてもらう
価値のあるものなのだが、それを、じっとこ
の胸にたたんで黙っていた。
ブルータス君、一つあなたに訊きたいが、あ
なたは自分の顔が見えるかね？
ブルータス　そりゃ見えない。だって、眼とい
うものは自分は見えないものだ、
なにか他の物に映してでも見ない限りはね。
キャシャス　そのとおりだ。
だから、ブルータス君、世人は非常に残念だ
といっている。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

あなたのその隠れた値打を、あなたの眼にはっきり見せるような、
つまりあなたが自分の姿を見ることができるような、
そうした鏡をお持ちにならぬということをね。
ローマのもっとも名誉ある人たち、いや、あの神のごとき
シーザーだけは別だが、それがあなたの噂をし、現在の圧制を嘆息してはだね、
あの高潔なブルータス君に、眼さえあればよいのだがと、
語り合っているのを私は耳にした。
ブルータス　キャシャス君、どんな危険に僕を引張り込もうというのだ、
僕の身にありもしないものを、なにか僕の中から
探し出せ、といわんばかりのその君の言い方は？
キャシャス　だから、ブルータス君、とくと聞いてもらいたいのだ、
あなたは、鏡にでも写してみなければ自分の姿は見えないという、
だから一つ私が鏡になって、あなた自身もまだ知らない、
あなたの一面を見せてあげようと思う、ただありのままにね。
ブルータス君、私を疑っちゃいけない。
私をただの太鼓持ちだとでもいうのかね、それとも、
相手が友達らしいことをさえ言えば、誰彼なしに
おざなりの誓言を並べたてて、友情の安売りをしたり、
人を見れば尻尾を振って、抱きついておきながら、
蔭じゃ悪口をつくとか、それとも宴会の席だとでもいえば、
一座の全部に親友面を振りまいて歩く、
もし私のことを、そうした男だと思うなら、
それこそ危険人物だと考えたまえ。
〔ラッパ吹奏。つづいて歓声〕
ブルータス　なんだ、あの歓声は？　気懸りだ、
もしかすると人民どもが、
シーザーを王に選ぶのではないかしら。
キャシャス　そう、気懸りだというのだね、あなたは？
してみると、あなたはそれを喜ばないと、そう考えざるをえない。
ブルータス　そうだ、喜ばない、しかし僕はあの男を愛している。
だが、なぜ君は僕をこんなに永く引止めるのだ？
僕に話したいというのは、いったいなんのことなのだ？
もし少しでも、社会公益のためになることならば、
この片方の眼には名誉を、片方の眼には死をさしつけるがよい、
僕はその両方を、同じように平然とみつめてみせるぞ。
神々も守りたまえ、僕は死なんぞ恐れるよりは、
はるかに名誉を重しとする人間だからな。
キャシャス　あなたにその勇気のあることは、よく知っている、
あなたのその顔をよく知ってるようにね。
そうだ、僕の話というのは、その名誉に関することなのだ。
あなたや、他の人たちが、この人生というものをどう考えているか、
それは私にも分らない。だが少なくとも私は
だね、私同様の人間を恐がって、ビクビクするよりは、
むしろ死んだほうがましだと思っている。
シーザーが自由な人間なら、私だって自由民の生れだ、
あなたもそうだ。二人とも同じ物を啖い、冬の寒さに
堪える力だって、彼奴と少しも変りはない。
一度こんなことがあった、風の強い、ひどく寒い日だった、
タイバーの河浪は荒れ狂って、岸に激している、
と、シーザーが私にいうのだ、「おい、キャシャス、
どうだ、一緒にこの荒波に跳りこんで、向う

岸まで
泳ぎ切る勇気があるか？」とね。声に応じて、
着衣のままだったが、私はザンブと跳びこんだ、
そして、さあ、続けッといってやった。なるほど、ついて来たね。
流れは轟々ととどろく、われわれ二人は元気よく水を搏ち、
波浪にめげじと、掻きわけ、押しわけ、泳ぎ進んだ。
ところが、どうだ、まだ目的の地点に着かないうちに、
シーザーの奴め、悲鳴を挙げおった、「キャシャス、
助けてくれッ、沈みそうだ」とね。で、私は、
あのわれらの太祖イーニーアス[1]が、トロイの猛火から、
老父アンカイシーズを肩にかついで、
救いだしたように、疲れ切ったシーザーを、
タイバーの河浪から救ってやったのだ。それがどうだ、
今じゃこの男はまるで神様だ、そしてキャシャスはといえば、
みじめな為体で、シーザーから気のない会釈の一つも
いただいてみろ、うやうやしく腰を折らなければならない。
あの男は、スペインにいた頃、熱病を患ったことがあるが、
発作の起るたびに、どんなにブルブル慄えたことか。
いいかね、この生神様がガタガタ慄いだぜ。
唇ときたら、腰抜者のように血の気がなくなるし、
今じゃ一と睨みで全世界を慴服させるあの眼が、まるで
光を失う、いや、私は実際彼奴の唸き声さえ聞いた。
そうだ、それに今でこそ彼奴が口を開けば、
全ローマ人は一心に
耳を立てて、彼奴の言葉をいちいち手帳にまで書留めるのだが、
それがどうだ、まるで病人の小娘みたいに、
「ティティニアス、
なにか飲み物をくれッ」と悲鳴をあげたものだ。
やれ、やれ、驚いたもんだ、こんな意気地なしが
この全世界の人間を出し抜いて、
栄冠の一人占めをしようなんて！

〔歓声。ラッパ吹奏〕

ブルータス　またしても歓声だ！
この喝采は、きっとまたなにか新しい栄誉が、
シーザーの頭につみ重ねられたに相違ない。
キャシャス　なに、君、彼奴はまるでロード島の巨人像[2]のように、
世界を狭しと踏みはだかっている。われわれ
意気地なしは、
いわば彼奴の巨きな脛のあいだをうろつき廻って、
面目次第もない、自ら墓穴を探しているようなものだ。
人間てものはね、時には自分の運命を支配することもできるのだ。
ねえ[3]、ブルータス、僕らがうだつの上らないのはね、
なにも運勢が悪いんじゃない、僕ら自身が悪いんだ。
ブルータスとシーザー、――シーザーという
名前に、なにがあるというのだ？
この名前が、君の名前以上に人の口に上らなければならぬ、なに理由がある？
二つ並べて書いてみたまえ、君の名前だって立派なものだ。
口で唱えてみたまえ、口に合った好い調子の
名前だし、
秤にかけたって重さに変りはない。祈禱の呪文に使ってみたまえ、
精霊を呼び出す功徳にかけちゃ、ブルータスもシーザーも変りはあるまい。
ああ、八百万の神々の名にかけて、
いったいこのシーザーは、なにを食っているというのだ、
あの男がこんな偉い人間になろうとは？　ああ、現代――
なんという汚辱の時代だ、貴様は！　ローマよ、

汝はかつての高邁な英雄精神の血統を失ってしまったのか！
たった一人の人間が、いっさいの名声を独占したというようなそんな時代が、
大洪水以来、ただの一度でもあったというのか？　談ローマの歴史に及んで、
この広大な城壁が、たった一人の人間を容れるにしか
足りなかったという、そんな馬鹿げたことの
言える時代が一度でもあったか？
やれやれ、大ローマとはよくいったものだ、
広いローマに人っ子一人しか
いないのだからな。ああ、僕らは親父たちの
口からよく聞かされたものだ、
かつてブルータスという男がいた、だがこの
ブルータスは、
ローマに王をゆるすくらいなら、むしろ悪魔
でも王に戴いたほうがましだと、
そうかたく信じていたそうだ。
ブルータス　君が僕に好意を寄せてくれる、それはよく解っている。
また僕にどうしろというのか、それも多少見当はついてきた。
で、その問題、乃至今日の時世に関する僕の考えは、
いずれ後で話すとしよう。今のところは、もうこれ以上
動かされたくないのだ、もっともこういう僕の願いが、君の感情を
害するというなら別だがね。君の言ったことは、
充分考えてみよう。それから君がまだ言い残している問題についても、
いずれ黙って拝聴したいと思う。そしてそうした
重大な問題に耳を傾け、またそれに僕が答える、
しかるべき適当な機会を見つけるとしよう。
それまでは、
キャシャス君、どうかこの一言を味わってくれたまえ、
ブルータスは、今のこの時世がわれわれに課
そうとする
酷い条件に甘んじて、ただいたずらにローマ
人の正統たるを誇称するよりは、
むしろ一個の田夫野人たらんことを願うものだ。
キャシャス　それは有難い、私の力弱い言葉が、
こればかりでも
ブルータスから熱情の火花を飛ばせたというのはね。
ブルータス　競技がすんで、シーザーが帰ってくるようだ。
キャシャス　じゃ、行列の通る時、キャスカの袖を引いてみたまえ。
先生、例の皮肉な調子で、今日どんな変ったことがあったか、
言ってくれるだろうよ。

シーザー及び随従ふたたび登場。

ブルータス　よし、やってみよう。だが、キャシャス、
見たまえ、シーザーの額に例のまっ赤な色が現れて、
他の連中は、まるで一喝にあった従者のように畏っている。
キャルパーニアの頬はまっ蒼だ。それにシセロの眼が、
まるで鏃のようにまっ赤に血走っている。

(1) アエネアスの英語読み。ヴィルギリウス「アエネアスの歌」第二歌七二一行参照。トロイ落城の日、トロイの英雄アエネアスは老父アンキセスを背負って火中を脱出、アエネアスはその後放浪の末イタリアに来り、ローマ人の始祖になったと信じられた。
(2) 地中海ロード島の港口に両脚を踏張って跨り、船は帆をあげたままその下を通航したといわれる巨人像。古代世界七大驚異の一つとして有名。
(3) ねえ、ブルータス――以下二行（本書では四行。以下原文の行数に従う）ことに有名。超自然的運命を信ぜず、人間実力の信奉者として、キャシャスの近世人的性格を明らかにする言葉。
(4) ギリシャ・ローマ神話にいわゆるデウカリオンの大洪水。ゼウス神は人間絶滅を図って大洪水を起すが、テッサリアのプティア王デウカリオンと王妃ピルラのみ助かり、その後裔が世界に充ちたという伝説。（ブライ神話のノアの洪水に相当する。
(5) ルーシャス・ジュニアス・ブルータス（前五〇九年頃在世）のこと。彼は王セクスタス・ターキニアスが人妻ルクレシアを凌辱したことを憤り、ローマ人を激してターキニアス一族を放逐した。ローマ王政の終り、以後共和政となる。

神殿の会議の席で、元老院議員たちから
反対に遭った時、彼奴はよくあの眼付をしたものだ。
キャシャス　何事があったか、キャスカが言ってくれるだろう。
シーザー　アントーニアス！
アントニー　はア？
シーザー　〔1〕おれは肥った人間に左右にいてもらいたい、
頭髪でも綺麗に梳きつけて、夜もよく眠る男にな。
ほら、あのキャシャスなどは、痩せて、なにか空腹じげな顔をしておる。
あの男は物を考えすぎる、ああいう男がえて危険人物なのだ。
アントニー　ご心配には及びません。けっして危険人物じゃございません。
あの男は立派なローマ人でもあり、気のいい男です。
シーザー　もっと肥えていればいいのだが！
いや、おれは恐れるのではない。
だが、かりにもしこのシーザーの名前が何物かを恐れるとすればだな、
あの痩せこけたキャシャス、あの男などは誰よりもいちばんに敬遠すべき人物だと思うのだ。
奴はなかなかの読書家だ、物を見る眼も大したもので、
人の行為などは奥の奥まで見抜いてしまう。
芝居嫌いだ、
君とは異ってな、アントニー。音楽も聞かない。
めったに笑いもしない、しかも笑えば、まるで自分自身を嘲るような、
かりにも心を動かされて笑顔を見せた自分の心を、
なにか蔑みでもするかのような笑い方をする。
ああいった男は、自分より上の人間さえ見れば、
きまって心おだやかでない、だから、
非常に危険な人物だというのだ。
もっともおれの言っているのは、どういう人間が怖いか、
それを言っているだけで、このおれが恐いなどと言っているのではない。
おれは常にシーザーだからな。この右側に来てくれ。こっちの耳は聞えない。
そしてあの男をどう思うか、本当のところを聞かしてくれ。

〔ラッパ吹奏。シーザー及び随従すべて退場。キャスカ一人残る〕

キャスカ　あなたは私の上着を引かれたが、なにかご用でしょうか？
ブルータス　そうだ、キャスカ。ねえ、今日なにがあったのだ、
シーザーがあのむつかしい顔をしていたのは？
キャスカ　はて、あなたはご一緒じゃなかったのですか？
ブルータス　一緒にいたくらいなら、君なんぞに訊きゃしないよ。
キャスカ　なに、シーザーに王冠を献げようとしたんです。ところが王冠を献げると、
シーザーは、手の甲で、こう、それを払い除けた、だもんで群集は一度にわッとくる。
ブルータス　じゃ、その次の歓声はどうしたのだ？
キャスカ　なに、同じことですよ。
ブルータス　三度歓声が挙がったが、最後のはなんだ？
キャスカ　なに、同じことですよ、それも。
ブルータス　じゃ、王冠は三度献げられたのだね？
キャスカ　そうなんですよ、それを三度ともシーザーは払い除けた、もっともそのたびにお手柔かにはなりましたがね。で、その払い除けるたびに、正直者の群集どもはやんやと喝采する。
ブルータス　王冠を献げたのは誰だ？
キャスカ　むろん、アントニーですよ。
ブルータス　その模様を話してくれないか、ねえ、キャスカ。
キャスカ　話しもなにもできるもんですか、いっそ首でも縊られたほうがましだってもんだ。
とんだ茶番狂言ですよ、私はよくも見ていなかったが。そりゃマーク・アントニーの奴が、王冠を献げるのは見ました、――だが、それ

もほんとの王冠じゃなくて、そうら、そこらの玩具の王冠みたいなやつなんで。それに、さっきも言ったように、そりゃシーザーはたしかに一度は払い除けた、だが、それすら私にはなんだかいかにも物欲しそうに思えた。で、それからもう一度献げたところが、シーザーはまたしても払い除けた。だが、今度は指を離すのが、よほど残り惜しそうに見えましたよ。ところでアントニーは、三度献げたんだが、シーザーも三度払い除けた。しかも彼奴がそれを拒むたびに、有象無象どもはむやみと喚き立てるやら、ひびだらけの手を拍くやら、汗だらけの帽子を投げるやら、シーザーが王冠を拒絶したッというんで、さんざん臭い息を吐き散らす。お蔭でシーザーはほとんど息がつまり、気を失って倒れてしまうという為体、だが、私は笑うわけにもゆかないのです、なにしろ口を開けば、毒気を吸いこむことになりますからね。

キャシャス　だが、ちょっと待ってくれたまえ。シーザーが気を失ったというのか？

キャスカ　広場の真中で打倒れて、口から泡を吹いて、物も言えなかったのです。

ブルータス　ありそうなことだ、あの男は癲癇の持病持ちだからな。

キャシャス　いや、癲癇で打倒れるのは、あの男じゃない、君や、僕や、この正直者のキャスカ、われわれ自身がそうなんだ。

キャスカ　どうもあなたのおっしゃることはよくわかりませんが、シーザーの打倒れたことはたしかな事実なんです。まったくの話が、群集というあの襤褸屑どもは、まるで芝居の役者にでもするように、気に入れば手を拍く、気に入らねば野次り倒すという、あれなんですからね。

ブルータス　息を吹返した時、シーザーはなんと言った？

キャスカ　それが、あなた、奴は打倒れる前に、王冠を拒んだのが群集の気に入ったと見ると、どうでしょう、胴衣の前をグイとはだけて、さあ、この咽喉をかき切ってくれと、そう言ったもんですよ。これがもし私が職人かなにかだったら、それこそすぐさま、言葉どおりにしないでどうするもんかってところなんですがね。ところでそう言ってシーザーは打倒れる、それが息を吹き返しての言い草がどうです、「諸君、自分がなにか変ったことをしたり、言ったりしたとしても、それはみんな病気のせいだと、そう思ってくれ」と言うのですからね。私のそばにいた三、四人の女どもは、「まあお気の毒に」とか、なんとか叫んで、心から宥していたようですが、なに、あんな女などは歯牙にかけるほどのもんじゃありません。奴らと来た日には、現在母親たちをシーザーに殺されても、どうせ同じことを言いそうな手合いですからね。

ブルータス　そんなことがあって、それであんなむつかしい顔をして帰って行ったんだな？

キャスカ　そうなんです。

キャシャス　シセロはなんとか言ったか？

キャスカ　ええ、ギリシャ語でなにか言いましたよ。

キャシャス　なんと言った？

キャスカ　いや、それがお話しできるくらいなら、二度とお目にはかかりませんよ。だが、解った連中はなにか互いに顔を見合せて、ニヤリと笑って、頭を振っておりましたっけ。だが、私にはまったくのちんぷんかんぷんでしてね。それからまだひとつニュースがありますがね、マララスとフレイヴィアスとが、シーザーの像から飾絹を剝ぎ取ったというので免職になりました。では、これで失礼します。いちいちは憶えていませんが、まだまだ馬鹿馬鹿しいことだらけでしたっけ。

キャシャス　キャスカ、君、今夜僕と一緒に食事をしないか？

キャスカ　あいにく、他に先約があるんでね。

キャシャス　じゃ、明日の昼飯はどうだ？

キャスカ　そう、まあ私に寿命があって、あなたの気が変らないで、それであなたのご馳走

(1) おれは肥った人間云々――性格学でいわゆる「乖離型」と「循環型」の体格的特徴を暗示している一節として有名。現代性格学の権威クレチュメルはその名著「体格と性格」の冒頭に、この四行をモットーとして引用している。

(2) ちんぷんかんぷん――原文では「私にとってはギリシャ語であった」という、古典学者シセロに対する皮肉な洒落になる。

がなんとか食べられる程度のものでしたらばね。

キャシャス　じゃ、よし、待ってるよ。

キャスカ　どうか。では、ご両君、さようなら。

〔退場〕

ブルータス　なんて無愛想な男になったもんだ！　学校時代は、あれでどうして威勢のいい男だったんだがなあ。

キャシャス　今でもそうだよ、なにか思い切った仕事だとか、りっぱな仕事をやりとげるってことになると、表面こそあんな鈍重な様子をしているが。あの無作法さは、彼奴の辛辣な皮肉に風味を添える、いわばソースみたいなものなんだ。巧みに人の食欲を唆り、奴の言葉を一段と美味しく賞味させようってためのね。

ブルータス　なるほど。だが、今日はこれでお別れしよう。もしなにか話があるのなら、明日、僕のほうからお訪ねしよう。それとも、君の希望次第では、僕のほうへ来てもらってもよい。お待ちしているから。

キャシャス　そうしよう。それまでこの天下の状勢をよく考えておいてくれたまえ。

〔ブルータス退場〕

ふむ、ブルータス、高潔な男だ、貴様は。だがな、貴様のその立派な精神といえども、本来の性質とは正反対の方向に動かされないとは限らないぞ。だからだ、高潔な人間は、やはり同じような高潔な人間と交わることが肝要なのだ。いかに志操堅固な人物といえども、誘って誘えないという人間はいない。シーザーはなぜかこのおれを憎むが、ブルータスには目をかけている。もしこのおれがブルータスで、彼奴がキャシャスだとしたらばだ、どうして彼奴ごときに、心を動かされるおれではないが。今晩ひとつ、奴の家の窓から手紙を投げこんでおいてやろう、さまざまに筆蹟をかえ、いかにも別々の市民から来たかのように見せかけるのだ。そしてそれらの手紙はすべて、ローマの市民たちが、いかに彼ブルータスの名前を信任しているかというようなことを書いておく、そしてついでに、シーザーの野心をそれとなく仄めかしてやるのだ。それでもなおシーザーめ、枕を高く寝られるものなら眠ってみろ、かならず揺ぶり倒してやるか、でなけりゃ地獄だ、もうひとつ悪い。

〔退場〕

第三場　同上。街上。

雷鳴、電光、一方から抜身を提げたキャスカ、他の一方からシセロ登場。

シセロ　今晩は、キャスカ。シーザーを送り届けて来たのか？　どうした、息を切らして？　そう眼を据えて、どうしたのだ？

キャスカ　あなたは平気でいられるのですか？　大地の平衡が破れて、まるでクラゲのようにグラグラ揺れているのに。ねえ、シセロさん、私もずいぶん暴風雨というものは知っています。吼え猛る烈風が、節くれ立った槲の梢を引裂くのも見ました、大海原が垂れこめた雨雲を凌がんものと、天に沖り、怒り、逆巻くのも見ました。だが、今日今夜まで、まだ火の雨を降らすという暴風雨には遭ったためしがありません。天に内乱が起ったとでもいうのか、それとも

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com